

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協ニュース

2019.6月
通巻 第543号

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

令和元年度第1回通常理事会の冒頭、あいさつする和田新也会長

令和元年度事業の実施状況などを説明

日造協は、第36回全国都市緑化信州フェアの開催に合わせ、5月28日「第13回造園技術フォーラム」(2,3面)、29日「令和元年度第1回通常理事会」「総支部長・支部長合同会議」「花と緑のつどい」、30日「信州フェア視察」を行った。

第1回通常理事会は、長野県松本市のホテルブエナビスタで13時に開催した。

冒頭、和田新也会長が、「昨今の造園業界を取り巻く情勢は、扱い手3法を契機に、大きく変化してきたと感じております。国が主導する建設キャリアアップシステムと連動する建設技能者の能力評価制度や、外国人労働者の受け入れ制度などの新たな動きにも乗り遅れることのないよう対応を進めていきたい」とあいさつ。

議事では、●平成30年度事業報告及び決算報告について、●令和元年度通常総会の招集について、●会員の入会について、●建設技能者能力評価の実施について、●規程の改正について審議した。

そのほか、令和元年度通常総会議案及び決議事項について、「役員の補欠選任」、「重点活動2019決議(案)」について、説明及び質疑応答、会長及び業務執行理事の職務執行状況報告、令和元年度造園建設功労賞等の表彰の報告を行った。

総支部長・支部長合同会議は15時から行われ、和田会長のあいさつの後、各委員会関係ごとに、【総務】①扱い手3法・人材の育成確保・働き方改革説明会の開催、②建設キャリアアップシステムへの対応、③建設分野における特定技能外国人の受け入れ、④規程の改正等、【技術】⑤法改正への対応方針(墜落制止用器具

と安全帯)、⑥だれでもわかる安全な造園作業テキストの発刊、【事業】⑦都市公園緑地等整備促進議員連盟の開催、⑧全国造園フェスティバルの開催、⑨全国造園デザインコンクールの開催、【資格制度】⑩公園・緑地樹木管理士研修会及び指導員研修会の開催、【造園領域発展戦略】⑪「新たな公民連携のあり方を考える」Park-PFIシンポジウム、⑫女性活躍推進部会の活動報告、⑬日造協の防災協定の締結状況、⑭会員拡大状況と入会案内、【国際】⑮北京国際園芸博覧会の視察ツアー、【共通】⑯資格制度・研修会関係の年間スケジュール、【事務局】⑰日造協協会活動の活性化、⑱東日本大震災復興支援本部・現地本部活動報告(東北総支部)、⑲熊本地震対策本部の設置・活動報告(熊本県支部)などについて説明。その後、総支部・支部の報告、意見交換と第37回全国都市緑化ひろしまフェアの紹介が行われた。

懇談会「花と緑のつどい」は、18時から開催。つどいは、加勢充晴関東・甲信総支部長、山崎信幸長野県支部長をはじめ、多数の地元会員の準備により行われ、国土交通省、長野県、松本市、信州フェア関係者など、来賓の方々も多数参加され、盛会となった。

春の褒章 日造協2氏が受章



佐野 晋一 氏



西田 厚志 氏

2019年春の叙勲・褒章で、日造協からは2氏が受章の栄に輝いた。

【黄綬褒章】佐野晋一氏(61)

(株)植藤造園代表取締役社長(京都府)

【黄綬褒章】西田厚志氏(63)

西田造園土木(株)代表取締役(長崎県)

本号の主な内容

2,3面 【特集】第13回造園技術フォーラム開催

これまでの総支部と学会に加え、松本市、デザコン受賞者も発表
中国での日本式温泉受注の経緯とその取り組み/公園は地方創生のシビル
ミニマム/『グリーンインフラ』造園業界にできること/基礎科学研究と
造園の仕事の間/松本市の緑化施策/「みどりの広場」プランへの取り組み

4面 【ふるさと自慢】和歌山県支部 高橋 容子(株)志野造園土木
見逃せない粉河寺庭園 お祭り、フルーツ盛りだくさん

【緑滴】静岡県支部 田中捺津記(天龍造園建設株)

私の癒やし

(一社)日本造園建設業協会 理事
(株)諸井緑樹園 代表取締役 諸井 道雄



香り立つ 令和

あの未曾有の3・11大震災、そして恐怖の東電原発事故。私はその発電所から30km圏内で被災しました……。あれから8年が経過し……。

◆
4月1日から6月30日まで、「街に暮らしにニッポンの緑」をテーマに春の都市緑化推進運動が始まりました。

ニッポンの緑は美しい四季の移ろいで育まれ、その緑は私たちの心をも育みます。まさに日本の伝統色であり、この2ヶ月に芽吹き始めた柔らかな緑は少しづつ色を濃くし、濃淡深浅な緑が街に暮らしを彩り、私たちはさまざまな緑の美しさを目の当たりにします。

そしてその豊かになった緑に集まつてくる野鳥たち。愛鳥週間は終わりましたが目や耳で楽しめる季節になってきました。

◆
今、福島県内は、花々が美しく咲き誇っています。「牡丹園」「大桑原つじ園」(須賀川市)、「ジュピアランド平田」の芝桜(石川郡平田村)、協会会員でもあります「緑水苑」(郡山市・磐梯園)のフジ、芝桜、あやめ等々。色でも楽しめる季節です。

ようやく県民が、この彩のある季節を楽しめるようになってきたと心の復興を感じます。

◆
また、2020年7月には、中野(双葉郡双葉町)・両竹(双葉郡浪江町)地区にまたがる地域に約48.4haの「復興祈念公園」が一部供用開始となります。

◆
「生命をいたみ、事実をつたえ、縁(よすが)をつなぎ、息吹よみがえる」のコンセプトを織り交ぜた公園がどんな形で皆様にお目見えするのか、大変楽しみであります。

また、県は、震災の記録を後世に残すために、「東日本大震災・原子力災害アーカイブ施設」を開所します。

やっと広く今の福島を、そしてこれからの福島を発信できる状況が整ってまいりました。

◆
美しい海岸線の7割強を津波で失った福島県。我々の出番である復旧・復興工事では、再びの白砂青松を願った海岸防災林の植栽や防災緑地も進捗し「緑の再生なくして福島の復旧・復興に終わりはない」との強い意志を再確認したところであります。

さらに、この春の都市緑化月間に新時代「令和」の幕開けです。この芽吹きの時期に新時代が開けることのなんと清新なことでしょう。

「令」にはうるわしいという意味もあり、まさに伝統色「うるわしき緑」の時代の始まりです。

◆
この「令和」を手話で表現すると「片手を前に動かしながら、すばめた指を緩やかに開く動作で、花のつぼみが未来に向かって咲く様子を表現。万葉集の梅の花の歌をイメージし、指先から香りを放つような表現にした」(全国手話研修センター常務理事談)とのことです。

◆
「指先から香りを放つ」なんと繊細で美しい日本人の心の表現ではないでしょうか。この香り立つような令和にも注目したいと思います。

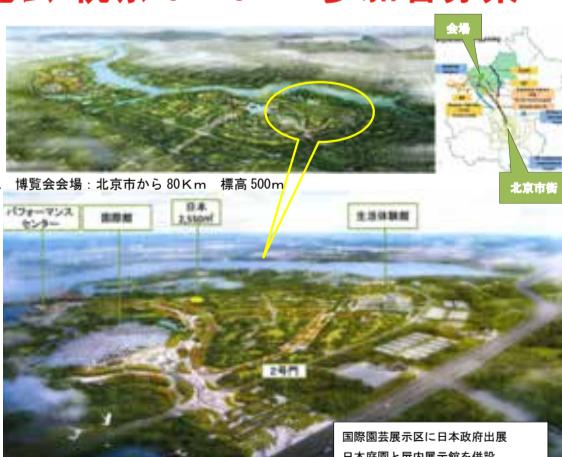
◆
この新しい時代、私達に課せられている多くの課題があります。解決すべき中心は、造園の担い手である「人」であります。解決策が机上の理論ではなく人に寄り添い地域に密着した策であること。

それを実践する時代の始まりです。

北京国際園芸博覧会 視察9/10-14 参加者募集

2019年北京国際園芸博覧会の「ジャパンディ9/12」に合わせた視察参加者を募集します。

視察日程は、9/10(火)~9/14(土)で、会場前のホテルに宿泊し、500haの広大な会場をゆっくり視察できる時間を確保。北京周辺の視察もご用意し、造園CPD10単位取得可能(申請中)です。発着地も羽田、関西、福岡発着・現地集合など多様な参加形態に対応します。ぜひご参加ください。日造協ホームページの新着一覧「2019中国北京国際園芸博覧会 視察ツアー 募集開始」より、



詳細 <http://www.jalc.or.jp/tour/index.php>
がご覧いただけます。

令和元年度 通常総会 講演会・意見交換会

6月21日(金)14:30~

ホテルグランドアーク半蔵門

東京都千代田区隼町1-1

☎ 03-3288-0111

会員の皆様のご参加をお願いいたします。

法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう！

第13回造園技術フォーラムは5月28日、長野県松本市で開催しました。本号では発表の概要を紹介します。※日造協会員の方は、会員専用サイトの「グループウェア」「ファイル共有」「07-造園技術フォーラム」で当日の資料をご覧いただけます。

全国都市緑化フェアの開催地で実施している日造協の造園技術フォーラムは、信州フェアの開催地・松本市のアルピコプラザホテルで開催した。

造園技術フォーラムは、和田新也日造会長が、貴重な発表を生かしていただきたいとのあいさつに次いで、関東・甲信、北陸、九州伊藤技術委員長と3総支部からの発表と、(公社)日本造園学会と日造協の包括協定の一環として、造園学会から、造園技術に関する発表を池口仁山梨県富士山科学研究所主任研究員、全体の講評を横張真東京大学大学院工学研究科教授よりいただきました。

また、今回は、開催地から上條裕久松本市建設部長、信州フェア会場での作庭を前提に行った全国造園デザインコンクール「みどりの広場」プラン部門最高



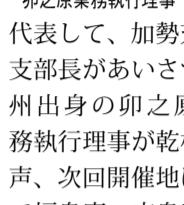
和田会長



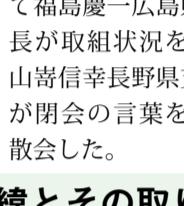
加勢関東・甲信総支部長



伊藤技術委員長



卯之原業務執行理事



冒頭、主催者

賞受賞者、市川大樹君からの発表も行われた。

最後に、伊藤幸男技術委員長が、造園技術のさらなる充実への期待を述べ、閉会した。

フォーラム後、関東・甲信総支部主催の交流会をアルピコプラザホテルで開催した。

冒頭、主催者を代表して、加勢充晴総支部長があいさつ。信州出身の卯之原昇業務執行理事が乾杯を发声、次回開催地について福島慶一広島県支部長が取組状況を紹介。

山崎信長野県支部長が閉会の言葉を述べ、散会した。



福島広島県支部長



山崎長野県支部長

中国での日本式温泉受注の経緯とその取り組み

関東・甲信総支部 群馬県 山田 通明 (群馬SIXリーダー)



群馬SIXは、日造協・群馬県支部の事業承継による若手経営者6名で構成し、競争・競合から協働・協力の時代に向けて、新たな仕事づくりを構築していく仲間です。

2012年に群馬県が観光誘致、県産品の販路拡大、ビジネス支援などを目的に群馬県上海事務所を設立。

2016年11月に県議団視察(造園視察)を実施、そこで知り合った方をきっかけに2017年3月から樹木材料の輸出をはじめ、日本では需要が激減した大径木などを購入いただきました。

同時に、輸出に不可欠な中国検疫機関の認証(CCICタグ)の取得体制も整え、



「日本式温泉」予定地の完成予想案内

樹木輸出を行いました。

樹木材料の輸出と合わせて、「日本の造園文化」への関心も高まり、江西省で中国企業が進める日本式温泉プロジェクトへの参加要請があり、中国国内に合わせた契約・体制が必要なことから、中国の法律や税制の専門家に協力してもらい、中国で建設業許可を持つ企業と連携、造園アドバイザーとして群馬SIXが参画するプロジェクトチームを発足させました。

建設地は、全体敷地面積600ha、その内温泉施設面積が230haあります。

山と蓮の花が有名な観光地で、環境を活かした日本式温泉を提案し、了解をいただき、これからランドスケープの設計を行うところです。

具体的には、露店風呂2つと周囲の石組みや植栽で、湯上りに山を見ながらの景観を楽しめるよう、今後図面化を行うために、流れのある温泉景観として群馬SIXで県内視察を行う等で、イメージの共有化にも取り組んでおります。

当初中国でのビジネスは政治的な関係からの懸念もありましたが、入り込んで見ると、中国国内インフラの驚異的な進歩に驚きました。

具体的には、露店風呂2つと周囲の

石組みや植栽で、湯上りに山を見ながらの景観を楽しめるよう、今後図面化を行うために、流れのある温泉景観として群馬SIXで県内視察を行う等で、イメージの共有化にも取り組んでおります。

日本は、人口減少による土地利用、気候変動に伴う災害リスク、地域経済の停滞など、さまざまな社会課題があり、グリーンインフラはこれらを解決するキーワードで、造園の得意分野でもあります。

日本の河川は、川幅が狭く短く急で、全国いたるところに川の水面より低い住宅地があり、集中豪雨時に一時的に河川への雨水流入を抑制すれば、氾濫を防げ、大災害に至らずに済みます。

災害対策は、用地買収や河岸工事などに税金が使われますが、グリーンインフ

ラは節税につながり、しかも多機能です。

北九州市の板櫃川は河川の一部を拡幅して大きな水溜を設置。日造協・大分県支部による芝生の根をネットに絡ませ、浸水時も流されないようにする「河川敷地の緑化工法」が採用され、通常は親水公園として活用し、水生生物の住処にもなっています。2年前の福岡の大雨では、下流部が氾濫危険水位を超えたが、氾濫は免れました。親水公園がなかった



板櫃川の現況①2年前の大暴雨で流された平板②

第13回 造園技術

これまでの総支部と学会に加え、

公園は地方創生のシビルミニマム~日本一小さな舟橋村「園むすびプロジェクト」の取り組み~

北陸総支部

富山県 金岡 伸夫 (株)金岡造園

舟橋村は、昭和62年に小学校入学者6名という子どもの減少で、平成元年から宅地造成を行いベッドタウンとして、20年で人口倍増。税収増、インフラ充実、児童数増となりました。

一方、コミュニティの断片化や人付き合いの希薄化で地域活動崩壊、行政依存度が高まるなどの課題も生まれました。

こうしたことから、村ではモデルエリアを整備。持続可能な地域をつくろうと、平成26年に勉強会を開催、翌年に事業者選定のプロポーザルを行いました。

その頃の私は、公共造園工事の減少、や技術者不足で、造園業界の将来に不安を感じており、新しい仕事に挑戦しようという思いを同世代の造園3社で共有し、プロポーザルに参加しました。

しかし、最初の2年は目標をどう達成したらいいか分からず、従来型の公園づくりに限界を感じ、利用者の多い子育て支援センターや図書館でのヒアリングなどを実施。イベントも人が集まるようになりましたが、日常多くの人が使いこなす公園が目標です。そして、①共催・連携で人を集めることに労力を使わない、②次に繋がるイベントであること、③公園と一緒に作る人、公園を動かす人を生み出すことだと分かり、異業種の連携を進め、公園の可能性が見えはじめました。

また、公園をよく知っている人が一番と、小学生対象をしぶり「こども公園部長」を募集。形式的なものではなく、子どもたちが、企画・資金調達・運営・

管理までを担ってもらうこととし、クラウドファンディングを実施、目標金額の254%を達成し、金額以上に資金協力した方が公園に関心と愛着を持ってくれるようになりました。「与えられるサービス」から、「関わる楽しさ」に人が集まります。これが新しい公園のカタチなのではないでしょうか。

公園は一番身近な社会であり、「こんな公園があるくらいだから、ここはきっといいまちだ」という期待感が人を呼び込みます。だから「公園は地方創生のシビルミニマム」なのであります。これが舟橋型のパークマネジメントです。

公園・広場など、造園が日頃生業としている場で、地域課題に役立つ取り組みができる、造園の仕事になるのです。植物と向き合っていた私たちが人と向き合う時代になったのだと思います。

この公園があるからここに住んでいると答える人が生まれ、コミュニティが生まれ、これまで何年もなかった弊社への入社応募者が生まれました。

地域課題を正しく掴めば、新しい役割を担うことができ、地域課題は地域の数だけあり、地域に応じて、パークマネジメントは応用できます。これこそが造園業の新たな可能性だと思います。



紹介されています。

中国の施主も最終的にはお客様が喜ぶ良いものを作るために良い仕事をしたいという気持ちは同じです。

ですから、新たな仕事づくりを今後も展開し、アジア市場に視点を広げ、日本とアジアの未来へ繋ぐ造園の架け橋になりたいと思います。

『グリーンインフラ』造園業界にできること

九州総支部 福岡県 藤田 良司 (株)九州造園

グリーンインフラは、「自然が持つ多様な機能を賢く利用することで、持続可能な社会と経済の発展に寄与するインフラや土地利用計画」と定義されています。

日本は、人口減少による土地利用、気候変動に伴う災害リスク、地域経済の停滞など、さまざまな社会課題があり、グリーンインフラはこれらを解決するキーワードで、造園の得意分野でもあります。

日本の河川は、川幅が狭く短く急で、全国いたるところに川の水面より低い住宅地があり、集中豪雨時に一時的に河川への雨水流入を抑制すれば、氾濫を防げ、大災害に至らずに済みます。

災害対策は、用地買収や河岸工事などに税金が使われますが、グリーンインフ

ラは節税につながり、しかも多機能です。

北九州市の板櫃川は河川の一部を拡幅して大きな水溜を設置。日造協・大分県支部による芝生の根をネットに絡ませ、浸水時も流されないようにする「河川敷地の緑化工法」が採用され、通常は親水公園として活用し、水生生物の住処にもなっています。2年前の福岡の大雨では、下流部が氾濫危険水位を超えたが、氾濫は免れました。親水公園がなかった



らどうなっていたことでしょう。大分県の河川敷緑化試験区域のコンクリート平板は流されました。芝生は流されず、現在もみどりを保っています。

また、雨水を土壤に浸透させる減災と、これまで緑化できなかった場所を緑化する日造協・九州総支部の「高架下緑化工法」は、平成15年に試験植栽を行い、その後、各所で施工しています。

高架上の雨水を高架下に設けた透水タイプのU字溝に誘引し、その雨量や日照で生育できる植物を植栽するのですが、現在も無灌水で生育し、雨水の貯留だけでなく、塵芥・騒音の軽減、雑草防止、景観向上、空気・雨水の浄化、ヒートアイランドの軽減など、多様な効果、グリーンインフラの機能を發揮しています。

貯留と浄化は、運動場の雨水をビオトープ学習池の拡幅や新設などで対応する学校や、建物・園地・駐車場に貯留の仕組みを設けた公園や大学などの対応が北九州市では進められています。

こうした考え方を応用すると、鹿児島の路面電車の軌道敷緑化も基盤を厚くすればそれだけ多く雨水を貯留でき、全国の街路樹の植栽基盤を根の生育空間と合わせて、雨水貯留ができる仕組みにすることで減災が可能になります。

巨額の地下貯留施設もありますが、1m³の雨水タンクを10万戸に置いても減災でき節税できます。さらに、公共施設への大型タンク設置や公園・グラウンドに高さ1mの擁壁をつくり、貯留できるようにしたら、より効果的に減災・節税が可能かもしれません。床上浸水を床下に抑えられれば、大きな減災になります。

最後に提案とお願いですが、日造協にグリーンインフラデータバンクを設置し、情報・資料・設計を会員が使える仕組みをつくることで、世のため人のためになって、私たちの仕事にすることができます。グリーンインフラに取り組み、造園技術を生かした災害の少ない街づくり、住み続けられる街をつくりましょう。

フォーラム開催

松本市、デザコン受賞者も発表

【学会発表】基礎科学研究と造園の仕事の間

(公社) 日本造園学会 池口 仁 (山梨県富士山科学研究所 主任研究員)



今日は、資料として配布されている日本造園学会の「技術報告集」の巻頭言で投げかけられた横張先生の「造園技術の行く末」という

池口 仁氏 聞いについて、自治体の基礎研究所員、「論文数」とともに「基礎研究によって県民が豊かになったか」が厳しく問われる立場から考えます。

私の基礎研究のうち、「日本の土地被覆の構造」では、人と自然の関係に構造があるという知見を得、「潜在自然植生の統計的推定」では、自然植生ごとに自然と人の関係が違うという知見、「自然の構造の地図化」では、自然の構造が読解できれば図面が作れることが分かり、これらは温暖化対応はじめ、保全の道具に使われるものになりました。

「人工衛星データによる樹木緑被率が増えている場所の研究」では、河川敷で管理のために占用されている場所と、緑化された公共事業用地だということが分かり、管理放棄された緑地で樹木緑被率が増えているという、悩ましい結果になりました。

「建物の色と風景の関係」では、人間はイメージが乱されると脳が疲れることが示され、景観の保全で色彩が裁判になることがあります、こうした際の基礎データになりました。

「学校林の研究」では、学校林の教育利用と活動を支える制度・体制の整備を山梨で開始、企業の支援をえて全国的に普及したため、実際に東京の中学校に通う息子も学校林を楽しめたようです。日本で一番多い公共施設は学校ですが、

人の触れる林が学校ごとにあれば、最も危惧されている里山の自然が残ります。

最初の自然環境の研究が学校林を考える基礎になって実際に展開しています。

富士吉田の都市マスター・プランでは自治体と住民のビジョンや目的の共有によって、目的を達成する合意形成の手法を議論しました。一例では新倉山において、眺望を守る、という目標が共有でき、公園の樹木を切ることで富士山の眺望を守り、ミシュランの三つ星ほか、高い評価につながりました。

造園は実学で、造園技術に基づいて研究していれば、造園の基礎研究になり、技術の確立と研究成果による拡張の繰り返し、フレームワークの確立とフレームワークの拡張の繰り返しで発展できるのが理想だと思います。

技術と研究が連携するには、「技術」が「引用できる形」で「書かれている」と便利で、「書かれている」ことを引用し、それに自分が新たに何をしたかを「書くこと」で、研究が発展します。

最初の問い合わせに戻ると「与えられた枠組みの最適解を出す」ことで人間はAIに勝てません。しかし、枠組みを変化させること、変化したときにAIを再構築することは、いまのところ人間の仕事です。

研究者が研究者で、技術者が技術者であり続けるには、枠組みを転換しAIを利用する側に立つのが近道で、また、社会の発展に繋がると思います。

そのためにも、多くの技術が「書かれている」ことが重要です。新しいことをやったら技術報告を書いていただきたい。そのことを最後に皆さんにお願いしたいと思います。

【特別発表】松本市の緑化施策

上條 裕久 (松本市建設部長)



松本市は、人口約24万人、面積978km²で、その約70%が山林・田畠で、標高3,000m級の山岳数は日本最多の9座で、今月国宝指定の答申を受けた「旧開智学校校舎」と5重6階天守が日本最古の「松本城」の2つの国宝があります。

「美しく生きる」をキャッチフレーズに、将来の都市像に「健康寿命延伸都市・松本」を掲げ、「市民一人ひとりが主体となって健康寿命を延伸し、誰もが生きがいをもって、いきいきと暮らし続けることができるまち」を目指して、「生きがいの仕組みづくり」を進めています。

現在、全国に広がっている「花いっぱい運動」は、松本市が発祥の地で、戦後まちが荒廃し人々が心に余裕が持てない中で、花を通じて人々の気持ちが豊かになるようにとの願いを込めて、松本市の小学校の教員だった小松一三夢先生によって始められました。

市の緑化施策の歩みは、昭和27年に「街を花いっぱいにする会」が設立、昭和48年には緑を守り育てる条例を施行し、さまざまな施策を行ってきました。

緑の基本計画は、平成27年に見直し策定し、「美しく生きる」ことにつなげ



る取り組みを示しています。

オープンガーデン事業は、平成16年に市の事業として開始し、バスツアーは毎年定員を上回る応募となっています。

近年は、地域の魅力向上と中心市街地への人口誘導による活性化、湧水のある小公園、市街地の緑化を進めるため、「水と緑の空間整備事業」を実施。これまでのワークショップや景観講座の取り組みを地域に広げる形で取り組みました。

今後は、社会状況の変化を踏まえ、身近な緑を守ってきた担い手が高齢化していることから①担い手の確保、身近にあった緑の減少と落ち葉の苦情などから②人と緑の関わり、緑が少ないと感じている人が多い③市中心部の緑について、きめ細やかな対応を検討していきたい。

【講評】

(公社) 日本造園学会 横張 真 (東京大学大学院工学研究科教授)



これからの時代のありようとして、政府はSociety 5.0を提唱しています。

5.0は、情報革命の4.0の延長のように思われますが、ハードな社会インフラの相対的な重要度が低下します。双方向のコミュニケーションやAIがさまざまな形で展開し、ケーブルなどのインフラも不要で、アンテナ1本あればいい。造園もハードな社会インフラであり相対的な価値がぐんと落ちてしまうと懸念しています。

相対的価値が落ちても、SDGs・持続可能な開発など、一定のマーケットがあり、従来の造園でできることもあります。しかし、若い人们はすでに変化し、象徴的な言葉が断捨離で、モノだけでなく、コトもです。コトも量より質。さらに、シェアリングにより、クルマをはじめ、空間もお金もスキルも必要分が必要なときにあればいいということです。

従来の開発モデルは、要素と機能に分解し、将来足りなくなると困るので、開発すればするほど大きくなりましたが、これから開発モデルは、断捨離やシェアリングで、どんどん小さくして、可能な限り重ねてしまうため、開発すればするほど小さくなります。

では、どうしたらいいのか。

1つは、新しいマーケットの開拓で、国外ではまだマーケットがあります。

2つ目は、これまで担ったことのない役割を担う、新しい役割の開拓です。

3つ目は、やったことのない場、空間に関わっていこうという空間の開拓。

4つ目は、付き合ったことのない人と付き合う、新しいパートナーの開拓です。

従来の枠の中にいたのでは、先細りになるのは間違いない、新しい場所や役割、相手が必要になりますが、今日の発表の中にそのヒントがあります。

中国での日本式温泉受注の経緯とその

取り組みは、縮小する国内から成長する海外へという、「①新しいマーケットの開拓」です。

公園は地方創生のシビルミニマムは、私の捉え方ですが、公園をまちづくりのメディア（媒体）として使っていこうと言う点と、今まで私たちが扱っていたものが植物（モノ）だとするならば、それを人（コト）に広げていこうという新しい取り組みであったと思います。

減災、環境保全については、グリーンインフラの名のもとに、領域を拡大していこうというフロンティアの話です。

池口先生のお話は、持続可能な地球社会の実現を目指す国際協働研究プラットフォームの「Future Earth」が目指している科学と社会の協働によるCo-Design & Co-Productionで、これからは科学だけ、技術だけではなく、ともに進んでいくことが大事だということです。

ですから、新しいパートナーとして、サイエンスやロジックの研究をしている私たちと、仲良くしていただくことも、新たな展開の1つだと思います。

そして最後に、これまで技術は人が開発してきましたが、5.0の時代は、機械が機械を使ってやってしまいます。造園はそうならないとおっしゃる方もいるかもしれません、私はそう思いません。

IBMはすでにモノをつくっておらず、日本の自動車、電気メーカーもハードな技術に見切りをつけ始めています。

造園業も他人事ではないと思います。



【受賞者発表】「みどりの広場」プランへの取り組み

市川 大樹 (山梨県立農林高等学校2年)



「みどりの広場」は、今日の発表まで、常に時間との勝負でした。

日本造園建設業協会の「全国造園デザインコンクール」の後援に

市川 大樹君 (公財) 都市緑化機構が加わって新設された「緑化フェア「みどりの広場」プラン部門」は、高校1、2年生が対象になっていました。

誰もが親しめる優しい庭をつくりたい。庭は維持管理に苦労することから、管理が楽ちんな庭にしたい。緑化フェアにちなんだ長野県らしい、そびえ立つ山とそこに広がる高山植物、沢崩れを表現しようとABCの3ゾーンで構成しました。

受賞を先生から聞き、苦労が報われたと思いましたが、模型を作ろうと言われ、それからがもっと大変でした。1年生だった私は、先輩にも協力してもらい、予算がないのでダンボールや学校にあるもので、実物大の模型を作りました。

受賞校がある山梨県支部が実施設計、フェア開催地の長野県支部施工とのことで打ち合わせや材料調達を行い、先輩や友人と模型の調整などを行いました。

施工は結果として、隣県であり経験したかったので、ご指導をいただきながら、



- メインの石が決まれば他の石は自然となじんでくる。
- 人に指示し、動かすことはとても難しい。
- 庭の一部だけを見るのではなく、全体のバランスを見ながら施工する。
- 自分一人では何も出来ないので周りの人を大切にしなければならない。
- 剣スコは体重をもといっぱいかけて掘る。

先輩や友人と2日間で施工しました。ここでもたくさんのこと学びました。

最後に貴重な機会を与えてくださった日造協をはじめ、関係者の皆さんに感謝しています。ありがとうございました。

ふる
と自慢
和歌山県

見逃せない粉河寺庭園

私の住む紀の川市は、和歌山県北部を流れる紀の川沿いで、和歌山市と高野山とのほぼ中間に位置します。



桃山時代の石庭 粉河寺庭園

に開催されています。

粉河寺に、子ども達や市民の願いを込めた紙雛を奉納し祈願祭が行われた後、「お姫様」に扮した女性を先頭に参道の「とんまか通り」を華やかに練り歩き、中津川に到着した紙雛は、小学生や保育園児の手により優しく中津川に放たれ紀の川へと流れています。温かい日差しの水面に色とりどりの流し雛が映え、粉河にひと足早い春が訪れます。

粉河寺に関連した季節の行事には、紀州三大祭りの一つ粉河祭があります。

これは、粉河寺の鎮守である「粉河産土神社」の例祭で毎年7月最終の土日に執り行われています。土曜日の宵祭では湯立て神事やだんじり囃子の奉納が行われ、ちょうどちんで飾り付けられただんじりが市内を練り歩きます。

日曜日の本祭は午前10時の式典に始

り大きく、紀の川沿いで産出される緑泥片岩（青石）が多く使われています。

その粉河寺に関連した季節の行事をいくつか紹介します。

粉河の町に春を招く風物詩にもなっている「紀の川流し雛」が毎年3月3日



春の風物詩
「紀の川流し雛」



ちょうどちんで飾られただんじり



紀の川市の食自慢はフルーツ。ジェラートやパフェもいろいろはじめとして、市内各地域に多数の直売所がありますので、和歌山へ来られましたら、ぜひ紀の川市にも立ち寄ってくださいませ。

高幣 容子 (株)志野造園土木)

全国安全週間

7月1日～7月7日
6月は準備期間



7/1～7/7は全国安全週間です。6月は準備期間になっています。

全国安全週間は、労働災害を防止するため産業界での自主的な活動の推進と、職場での安全に対する意識を高め、安全を維持する活動の定着を目的とした厚生労働省主催の運動です。

労働災害は長期的には減少していますが、平成30年については、「死亡災害」は前年を下回る見込みとされていますが、「休業4日以上の死傷災害」は3年連続で増加しています。

今年のスローガンは、「新たな時代にPDCAみんなで築こう ゼロ災職場」。

日造協ではポスターを作成し、会員の皆様に配布しています。労働災害をなくすため、ご活用ください。

事務局の動き

[5月]

- 8(木) 技能五輪全国大会 競技委員会
・若年者ものづくり競技大会 競技委員会
- 9(金) 広報活動部会
- 10(金) 街路樹剪定士認定委員会試験部会
- 14(火) 造園フェスティバル推進部会
- 15(水) 総務委員会・財政・運営部会、合同会議
- 16(木) 運営会議
- 17(金) 技能五輪全国大会合同委員会
- 18(土) 第30回全国「みどりの愛護」のつどい
- 21(火) 平成30年度事業監事監査
- 23(木) 全国都市緑化祭
- 25(土) 地域リーダース勉強会 ~26(日)
- 28(火) 造園技術フォーラム
・登録基幹技能者制度推進協議会総会
- 29(水) 第1回通常理事会
・総支部長・支部長合同会議
・花と緑のつどい
- 30(木) 信州フェア会場視察

[6月]

- 2(日) 技能五輪全国大会競技委員会
- 4(火) 広報活動部会
- 5(水) 技術・技能部会

7(金) 登録造園基幹技能者講習委員会(試験委員会)
11(火) 造園・環境緑化産業振興会事務局会議
13(木) 全国造園デザインコンクール等推進部会
・街路樹剪定士認定委員会
17(月) 技能五輪全国大会競技委員会
21(金) 通常総会
・都市公園緑地等整備促進議員連盟合同会議
26(水) 第1回造園施工管理技術検定委員会
27(木) 要望・提言活動部会

委員会等の活動

●総務委員会・財政・運営部会、合同会議
5/15 平成30年度事業報告(案)及び決算報告(案)について審議した。

●技能五輪等部会
5/8 競技委員会で、技能五輪全国大会(愛知:11/15~18)と若年者ものづくり競技大会(福岡:7/31~8/1)の競技課題について検討した。

●技術・技能部会
6/5 人材育成研修用の「移植技法編」テキストの編集を行った。

●造園フェスティバル推進部会
5/14 今年度の開催について、テーマやターゲット、開催会場を増やす方法、新たなツールの開発やブレスリリースについて検討した。

編集後記 ラグビーワールドカップが近づいてきましたね。日本全国で白熱することでしょう。チケットが品薄ですが毎日空き状況をチェックしています。諦めの悪さが吉とてあるが凶とてあるか。



荒野の用心棒
ジョージ

刈幅 1545 mm
刈高 0~320 mm
最大出力 51 PS

CG510 KZC
■ハンドガイド式美残刈車
¥9,000,000(税抜)



緑地管理をもっと楽に!!

Key MASAO



刈幅 975 mm
刈高 0~150 mm
最大出力 20 PS
CMX2202 YC
■乗用草刈機
¥980,000(税抜)



農業・建設・林業用運搬車や草刈機等の製造

本社: 〒839-1396福岡県うきは市吉井町福音90-1
TEL0943-75-2195 http://www.canycom.jp



CANYCOM
キャニコム